

調査の概要

- 調査実施日 平成29年6月21日（水）
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
 - ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科・英語）
 - ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）
- 調査参加者 中学3年生（本市参加者 641人）
 ※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】
 全ての教科において、府全体の平均点を下回っています。その差が特に大きかったのは、理科の4.6点でした。しかし、対府平均比は、昨年度と比較すると、社会・数学・理科で改善が見られました。

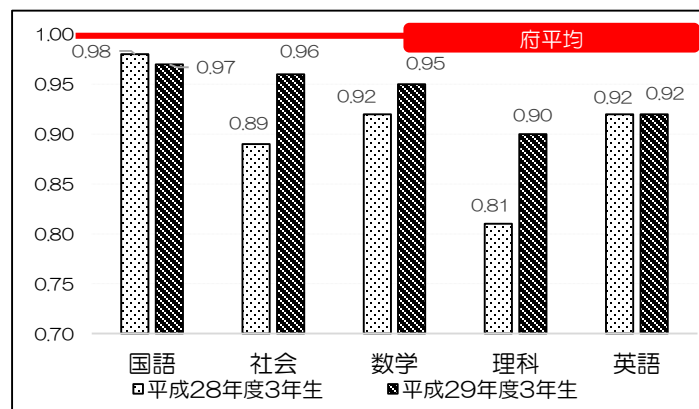
【教科別得点分布・無解答率】
 得点分布は昨年度に比べると府の傾向と近似してきましたが、依然として学力の上位層が少なく、下位層が多いのが大きな課題です。しかし、無解答率は英語以外の教科で府の平均と同程度になりました。

【観点別・設問別結果】
 観点別・設問別の解答傾向は、府全体とほぼ同じ傾向ですが、全ての観点・設問において正答率が低い結果でした。

教科別平均点・対府平均比経年比較

	国語	社会	数学	理科	英語
本市平均点	59.4	52.0	46.6	43.1	44.4
大阪府平均点	61.7	54.4	49.0	47.7	48.4
対府平均比	0.97	0.96	0.95	0.90	0.92

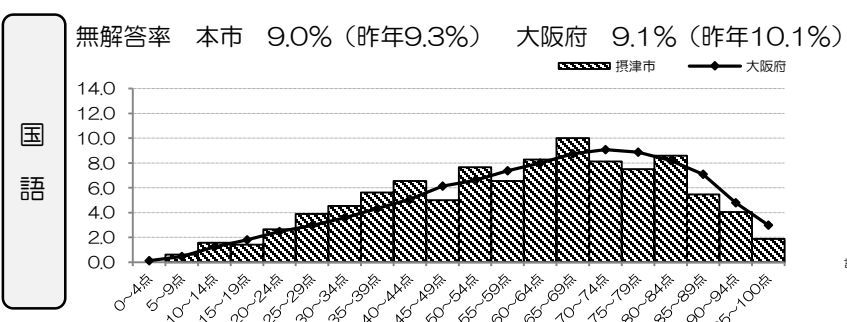
対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。



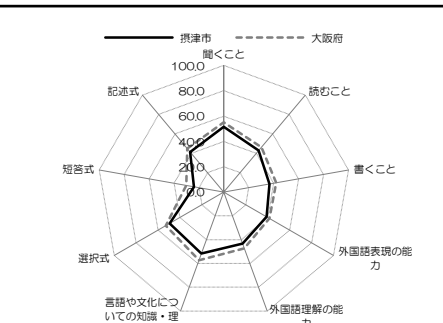
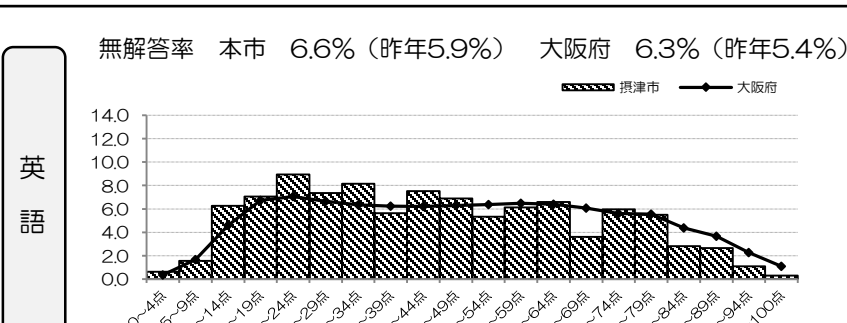
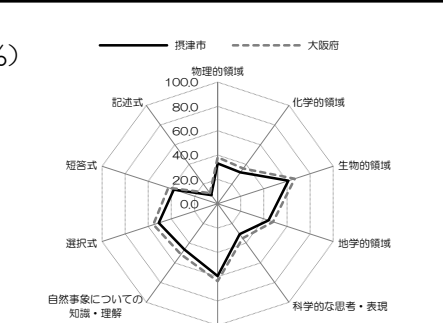
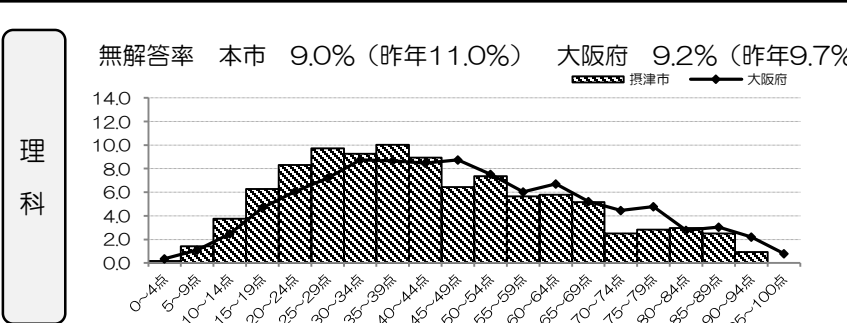
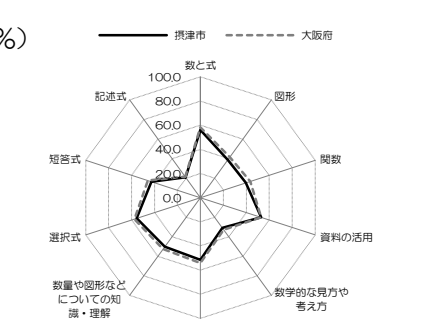
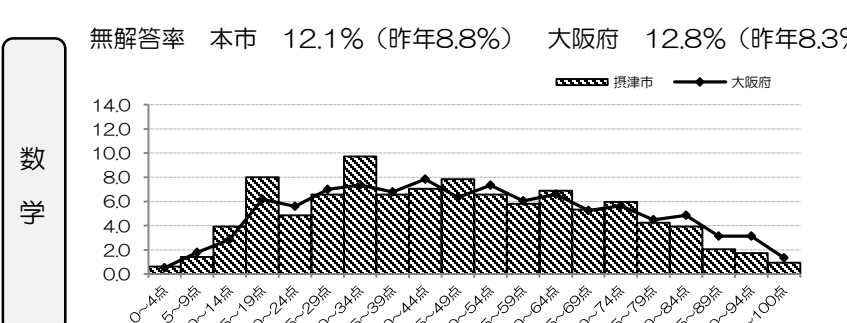
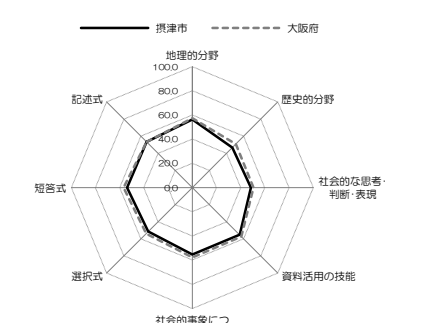
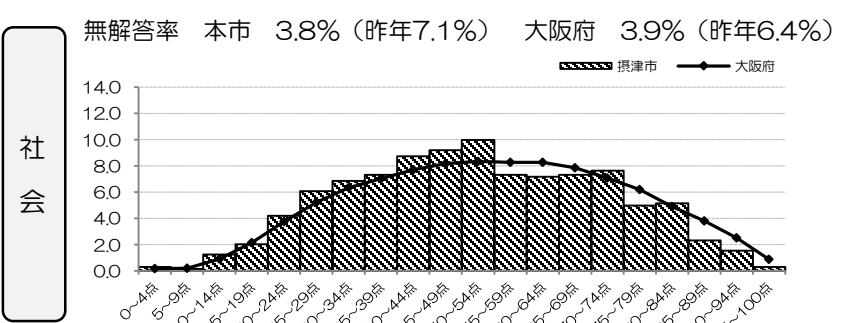
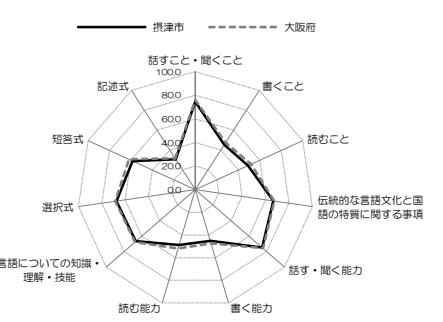
今後に向けて

- 教育委員会では、調査結果を以下の取組みに生かすとともに、昨年12月に策定した「摂津の学校教育スタンダード」に沿った各学校の取組みを支援します。
 - 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
 - 各学校では、結果から一人ひとりの学力の課題を見直し、指導していくことで進路保障につなげ、教育委員会では、こうした学校の取組みを支援し、学習支援のための地域人材の派遣等を行っていきます。
 - 教員の授業力向上のための研修を充実させ、組織的・継続的に人材育成を行います。
 - これまでの教育委員会や学校の取組みの効果検証を行い、児童生徒に確かな学力を育むためのより良い教育施策を行います。
- 学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣と学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

教科別得点分布・無解答率



観点別・設問別結果



授業についての意識調査

生徒アンケートは、毎年同じ内容で各教科2問、授業についての質問項目があります。授業の内容がよくわかっているかどうか、教科の学習に主体的に取り組んでいるかどうか、尋ねています。

【授業の内容理解】
○国語・社会・数学では、学年が上がるにつれ、「当てはまる」と答えた割合が高くなっており、3年生では府平均を超えています。

○一方、理科・英語では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で、府に比べ低くなっています。

【教科の学習への主体性】
○全ての教科において、学年が上がるにつれ、「当てはまる」と答えた生徒の割合が高くなり、主体的に学習に取り組む生徒が増えています。

○理科以外の全ての教科において、3年生で「当てはまる」と答えた生徒の割合は府の平均を超えました。

○さらに、3年生での肯定的回答(※)の割合が国語では3.3%、社会では6.2%、府全体の割合を上回りました。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した合計を表します。

今後も引き続き、このような質問項目で肯定的な回答をする生徒が増えるよう授業改善を進め、学習意欲の向上に努めます。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご利用ください。

ワークブック問題
<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

かだめしプリント
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

前年度までの回答との比較と今年度大阪府の結果との比較

(1年生チャレンジテストは国語・数学・英語の3教科のみ、実施されます。)

